

地方国立大学大学院の広報活動の検討

——入試広報アンケートの分析から——

上岡 麻衣子, 植野 美彦, 関 陽介, 川野 卓二 (徳島大学)

大学院の定員未充足が危惧されるなかで、志願者の確保を目的とした大学院の広報活動の重要性は一層高まるものと考えられる。本稿では、2021 年度大学院の新入生を対象とした入試広報アンケート結果をもとに、徳島大学大学院の受験を決める際に影響を受けた人物と影響度、広報媒体の利用状況と役立ち度、重視した特徴について出身校別に比較して、調査した。その結果、出身校別に異なる傾向がみられ、対象者に応じて入試広報の戦略を立てる必要があることが示唆された。

キーワード：大学院，入試広報，質問紙調査

1 はじめに

欧米諸国に比し、質的にも量的にも不十分な我が国の大学院の飛躍的な充実を図るために、文部科学省大学審議会は 1991 年に「大学院の整備充実について」、同年 11 月に「大学院の量的整備について」と相次いで答申を発表し、1991 年から 10 年間で大学院学生数は大幅に拡大した。これまで大学院が設置されていなかった私立大学で大学院が次々と新設され、1990 年代後半からは高度専門職業人の養成に特化した大学院の検討が進み、より多様な大学院が設置されるようになった。しかし、2000 年代に入ってから大学院学生数の増加に限りが見られ、2006 年頃からはほぼ横ばいの状況になっている。その原因として、金子 (2011) は、理工系以外の分野では、大学院修士課程を修了しても、就職に有利になるケースは少ないことや伝統的に大学院は、研究者を目指す学生が多く進学してきたが、大学教員はすでに供給過剰になっており、「オーバードクター/ポストドクター」(博士課程修了後、定職に就いていない者) の増加が社会問題になっていることを挙げている。18 歳人口の減少や若者の博士離れが危惧される中で、志願者・入学者の確保はより難しくなっている。

本学は、理工・農・医・保健・歯・薬学系の学部が揃っており理系色が強い大学である。特に、理工学部は 6 年一貫カリキュラム等の大学院進学を前提としたカリキュラムを組んでいることもあり、進学率は学内で最も高い約 60%になる。ただし、理工・農学系以外では定員未充足の研究科があり、特に、博士課程においては顕著である。大学院の定員未充足が続いている中で、対策が喫緊の課題となっている。大学院入学者を出身校別でみると、大多数が本学出身者となっており、研究科によって差はあるが、学外出身は全体の 1

～3 割程度にしかすぎない。それらの現状等も踏まえ、徳島大学では、2016 年度より全学的な見地から大学院教育の円滑な運営を図るために大学教育委員会の下に大学院教育専門委員会を設置し、大学院教育の充実・改革に取り組んでいる。さらに 2020 年度から入試広報を強化する目的で高等教育研究センターアドミッション部門に大学院アドミッション担当を置くこととなった。

アドミッション部門では、大学院も担当となったことを契機として、今後の効果的な広報活動を検証していくためにも、大学院の新入生を対象として、「大学院入試広報活動等アンケート」(以下、入試広報アンケート)を実施することとなった。

そこで本稿では、2021 年度に実施した入試広報アンケートの結果をもとに、大学院の志願者を確保するための入試広報について調査・分析を行うことを目的とする。

2 調査方法

2.1 質問項目の設計

本学では、毎年、全学部の新入生を対象として入試広報アンケートを実施しているが、同様のアンケートは多くの大学でも行われている。例えば、佐藤ほか (2012) は、入試広報を改善するために、新入生が利用した情報源、進路指導室の利用状況等について調査し、並川ほか (2014) はそれをふまえて、「利用した広報媒体とその有用性」、「志望校選びで重視した点」、「志望校決定に際して影響を受けた人物」の 3 点について分析している。さらに、吉田ほか (2018) は、並川ほか (2014) が分析した 3 点を他の先行研究についても同様に整理した上で、入試形態ごとに分析している。これらはすべて新潟大学での実践報告であり経年変化

についても検証している。大学院の入試広報の報告事例が少ないこともふまえて、本学ではこれまで実施した学部用の入試広報アンケートや新潟大学の質問項目を参考に大学院入学者を対象としたアンケートを作成した。

2.2 出身校別の分類

本学は自校出身者が大半を占め、学内外(特に学外)の志願者をどのように増やしていくのかが課題となっている。広報戦略を考える上でも、学内外の大学院進学者の動向を把握することが重要と考え出身校別に分析する。出身校別の分類は、以下のとおりとする。

- ・徳島大学から徳島大学大学院の修士・博士前期課程に進学した新入生(以下、徳島大学)
- ・徳島大学以外の国内の大学を卒業し、徳島大学大学院の修士・博士前期課程に進学した新入生(以下、徳島大学以外の国内の大学)
- ・徳島大学大学院修士・博士前期課程から徳島大学の博士後期課程に進学した新入生(以下、徳島大学大学院修士・博士前期課程)
- ・徳島大学大学院以外の国内の大学院を卒業し、徳島大学の博士後期課程に進学した新入生(以下、徳島大学大学院以外の国内の大学院)
- ・高等専門学校の専攻科を卒業し、徳島大学大学院の修士・博士前期課程に進学した新入生(以下、高等専門学校の専攻科)
- ・外国の大学を卒業し、徳島大学大学院の修士・博士前期課程、博士後期課程に進学した新入生(以下、外国の大学)

2.3 回収方法

2021年4月に開催されたオリエンテーション時に、同年4月に本学大学院に入学した新入生567名(理工系317名、農学系39名、医歯薬学系187名、人文・社会科学系24名)を対象にアンケート調査を行った(表1)。人文・社会科学系と農学系、歯学系はその場で回収し、理工系と医歯薬学系は、締切日を定め後日回収した。

2.4 質問項目

アンケートの質問項目は以下になる。

- ・影響を受けた人物と影響度
「徳島大学の受験を決める際に、6項目(先輩・友人など。詳細は表2参照)の人物に話を聞く機会がありましたか。」
「話を聞く機会があったと回答した場合は、どのくらい影響を受けたのかを選んでください。」(4件法)
 - ・広報媒体の利用(参加)状況と役立ち度
「徳島大学の情報を得るために、8項目(徳島大学大学院ホームページなど。詳細は表3参照)の広報媒体を利用(参加)しましたか。」
「利用(参加)したと回答した場合は、それがどのくらい役に立ちましたか。」(4件法)
 - ・重視した特徴
「徳島大学の受験を決める際に、23項目(国立大学であることなど。詳細は表4参照)の特徴について、どのくらい重視しましたか。」(4件法)
- なお、留学生等も含まれることから英訳したアンケートも作成した。

表1 各研究科の入学者数やアンケート回収率等の結果

各研究科等		令和3年度 入学者数 (4月入学)	アンケート 回収枚数	アンケート 回収率
創成科学研究科 (人文・社会科学系と 理工系、農学系)	・地域創成専攻【修士課程】	15	15	100%
	・臨床心理学専攻【修士課程】	6	6	100%
	・理工学専攻【修士課程】	303	268	88.4%
	・生物資源学専攻【修士課程】	39	38	97.4%
総合科学教育部(人文・社会科学系)	・地域科学専攻【博士後期】	3	3	100%
医学研究科	・医科学専攻【修士課程】	9	12	31.6%
	・医学専攻【博士課程】	29		
口腔科学研究科	・口腔保健学専攻【博士前期課程】	3	20	80%
	・口腔保健学専攻【博士後期課程】	4		
	・口腔科学専攻【博士課程】	18		
薬学研究科	・創薬科学専攻【博士前期課程】	37	29	59.2%
	・創薬科学専攻【博士後期課程】	9		
	・薬学専攻【博士課程】	3		
医科栄養学研究科	・人間栄養科学専攻【博士前期課程】	34	6	14.6%
	・人間栄養科学専攻【博士後期課程】	7		
保健科学研究科	・保健学専攻【博士前期課程】	26	31	91.1%
	・保健学専攻【博士後期課程】	8		
先端技術科学教育部 (理工系)	・知的力学システム工学専攻【博士課程】	4	8	57.1%
	・物質生命システム工学専攻【博士課程】	3		
	・システム創生工学専攻【博士課程】	7		
合計		567	436	76.9%

3 分析結果

3.1 回答者の分類

協力が得られたのは 436 名（理工系 276 名，農学系 38 名，医歯薬学系 98 名，人文・社会科学系 24 名）で，回収率は全体の 76.9%であった。大学院入学者を出身校別に集計すると，徳島大学 377 名（理工系 263 名，農学系 38 名，医歯薬学系 62 名，人文・社会科学系 14 名），徳島大学以外の国内の大学 21 名（理工系 3 名，医歯学系 15 名，人文・社会科学系 3 名），徳島大学大学院修士・博士前期課程 23 名（理工系 5 名，医歯薬学系 13 名，人文・社会科学系 5 名），外国の大学 7 名（理工系 2 名，医薬学系 3 名，人文・社会科学系 2 名）となった。回答数が少なかった徳島大学大学院以外の国内の大学院 2 名，高等専門学校の専攻科 2 名，その他 4 名を除き 428 名を分析対象とした。

3.2 影響を受けた人物と影響度の分析結果

本学の受験を決める際に影響を受けた人物について，表 2 の 6 項目について，話を聞く機会があったと回答した割合（接触率）を算出した（表 2）。その結果，全体でみると，「先輩・友人」の接触率が一番多く，次いで，「徳島大学の先生」，「出身大学の先生」となった。

次に，出身校による接触率の偏りの有無を明らかにするため，項目ごとにカイ二乗検定を行った。その結果，「先輩・友人」，「職場の上司や同僚」で有意な差がみられた。さらに，出身校ごとの偏りを見るため，調

整済み残差を用いて残差分析を行った。「先輩・友人」については，「徳島大学」が有意に高く，「徳島大学以外の国内の大学」が有意に低かった。また，「職場の上司や同僚」は，「徳島大学以外の国内の大学」や「徳島大学大学院修士・博士前期課程」が有意に高く，「徳島大学」は有意に低かった。

この結果から，「先輩・友人」は，出身校が「徳島大学」で接触率が高く，「徳島大学以外の国内の大学」で接触率が低い傾向にあることが分かった。この理由として，出身校が「徳島大学」では，学部からのストレートで大学院へ進学した学生が多く，大学院入試を合格した研究室等の先輩から大学院での学びや入試についてのアドバイス等をもらいやすいことが考えられる。逆に「職場の上司や同僚」は，出身校が「徳島大学」よりも，「徳島大学以外の国内の大学」や「徳島大学大学院修士・博士前期課程」で接触率が高い傾向がみられた。この理由として，出身校が「徳島大学以外の国内の大学」や「徳島大学大学院修士・博士前期課程」は，医歯学系の新入生が多く含まれ，大半が病院で働きながら大学院に通っていることから職場の上司や同僚に話を聞く機会が多くなることが推察される。次に，話を聞く機会があったと回答した者だけを抽出し，出身校ごとに各項目の影響度（1：まったく影響を受けなかった～4：かなり影響を受けた）の平均値を算出した。

表 2 接触率とカイ二乗検定・残差分析の結果（出身校別）

		全体 N=428	徳島大学 (N=377)	徳島大学以外の 国内の大学 (N=21)	徳島大学大学院修士・ 博士前期課程 (N=23)	外国の大学 (N=7)	カイ二乗検定 (df=3)	
							検定統計量	p値
先輩・友人	接触率	66.1%	68.7%	33.3%	52.2%	71.4%	13.28	0.004
	調整済残差		3.1**	-3.3**	-1.5	0.3		
徳島大学の先生	接触率	57.2%	56.0%	57.1%	73.9%	71.4%	3.44	0.33
	調整済残差		-1.4	0.0	1.7	0.8		
出身大学の先生	接触率	43.9%	43.8%	52.4%	39.1%	42.9%	0.83	0.84
	調整済残差		-0.2	0.8	-0.5	-0.1		
保護者	接触率	30.6%	31.0%	23.8%	26.1%	42.9%	1.21	0.75
	調整済残差		0.5	-0.7	-0.5	0.7		
職場の上司や同僚	接触率	9.6%	6.1%	42.9%	30.4%	28.6%	46.58	0.000
	調整済残差		-6.6***	5.3***	3.5***	1.7		
兄弟姉妹	接触率	6.1%	6.1%	4.8%	8.7%	0	0.79	0.85
	調整済残差		0.1	-0.3	0.5	-0.7		

※*** : p<.001, ** : p<.01, * : p<.05

※各項目は全体の接触率の降順に並べた。

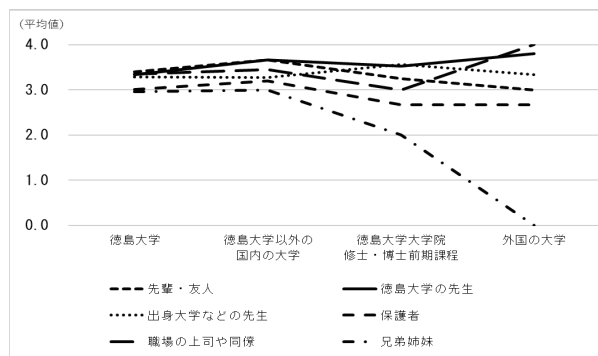


図1 各項目の影響度（出身校別）

なお、接触がなかった場合の平均値は0とした。その結果を図示すると（図1）、接触率が高かった、「先輩・友人」、「徳島大学の先生」、「出身大学の先生」ともに影響度も高くなった。さらに、出身校による影響度の平均値の差について、項目ごとに一元配置分散分析を行ったが、有意水準5%で有意な差は認められなかった。

3.3 広報媒体の利用（参加）状況と役立ち度の分析結果

本学に関する情報を得るために利用（参加）した広報媒体として、ウェブサイト3項目とイベントとしてオープンキャンパスや入試説明会1項目、教育産業等のウェブサイト2項目、教育産業等のイベントとして

民間業者主催の進学ガイダンス1項目、紙媒体として民間の受験情報誌1項目、計8項目について、利用（参加）したと回答した割合を算出した（表3）。その結果、全体でみると、「徳島大学大学院ホームページ」・「入学した教育部・研究科のページ」・「教員・研究ページ」の順に利用率が高くなった。このことから、「公式ホームページ」が新入生の主たる情報源になっていることが分かる。

次に、出身校による利用（参加）率の偏りの有無を明らかにするため、項目ごとにカイ二乗検定を行った。その結果、「入学した教育部・研究科のページ」、「教員・研究ページ」、「オープンキャンパスや入試説明会」、「大学院進学情報サイト」で有意な差がみられた。さらに、出身校ごとの偏りを見るため、調整済み残差を用いて残差分析を行った結果、「入学した教育部・研究科のページ」については、「徳島大学以外の国内の大学」と「外国の大学」の利用率が有意に高く、「徳島大学」が有意に低かった。「教員・研究ページ」については、「徳島大学以外の国内の大学」と「徳島大学大学院修士・博士前期課程」の利用率が有意に高く、「徳島大学」は有意に低かった。また、「大学院進学情報サイト」は、「徳島大学大学院修士・博士前期課程」と「外国の大学」の利用率が有意に高く、「徳島大学」は有意に低かった。また、「オープンキャンパスや入試説明会」については、「外国の大学」の参加率が有意に高かった。

表3 広報媒体の利用（参加）率とカイ二乗検定・残差分析の結果（出身校別）

		全体 N=428	徳島大学 (N=377)	徳島大学以外の 国内の大学 (N=21)	徳島大学大学院修士・ 博士前期課程 (N=23)	外国の大学 (N=7)	カイ二乗検定 (df=3)	
							検定統計量	p値
徳島大学大学院 ホームページ	利用（参加）率	67.8%	66.3%	85.7%	69.6%	85.7%	4.53	0.21
	調整済残差		-1.7	1.8	0.2	1.0		
入学した教育部・ 研究科のページ	利用（参加）率	63.6%	60.5%	95.2%	73.9%	100%	15.72	0.001
	調整済残差		-3.6***	3.1**	1.1	2.0*		
教員・研究ページ	利用（参加）率	43.0%	39.5%	71.4%	65.2%	71.4%	15.73	0.001
	調整済残差		-3.9***	2.7**	2.2*	1.5		
オープンキャンパスや 入試説明会	利用（参加）率	15.0%	14.6%	9.5%	13.0%	57.1%	10.39	0.02
	調整済残差		-0.6	-0.7	-0.3	3.2**		
その他の民間業者の Webサイト	利用（参加）率	1.9%	2.1%	0	0	0	1.10	0.78
	調整済残差		1.1	-0.6	-0.7	-0.4		
大学院進学情報サイト 「大学院へ行こう！」 進研アド	利用（参加）率	1.6%	1.1%	0	8.7%	14.3%	15.21	0.002
	調整済残差		-2.5*	-0.6	2.7**	2.7**		
民間業者主催の 進学ガイダンス	利用（参加）率	1.2%	1.1%	4.8%	0	0	2.74	0.43
	調整済残差		-0.6	1.6	-0.5	-0.3		
民間の受験情報誌	利用（参加）率	1.2%	1.3%	0	0	0	0.68	0.88
	調整済残差		0.8	-0.5	-0.5	-0.3		

※*** : p<.001, ** : p<.01, * : p<.05

※各項目は全体の利用（参加）率の降順に並べた。

この結果から、「入学した教育部・研究科のページ」、「教員・研究ページ」、「大学院進学情報サイト」は、学外からの新入生である「徳島大学以外の国内の大学」や「外国の大学」で利用率が高く、「徳島大学」は利用率が低い傾向にあることが分かった。さらに、「オープンキャンパスや入試説明会」については、「外国の大学」である留学生の参加率が高い傾向にあることが分かった。

次に、利用（参加）したと回答した者だけを抽出し、出身校ごとに、各項目の役立ち度（1：まったく役に立たなかった～4：かなり役に立った）の平均値を算出した。なお、利用（参加）がなかった場合や無回答の場合の平均値は0とした。その結果を図示すると（図2）、利用率が高かった「公式ホームページ」は役立ち度も高くなった。また、「オープンキャンパスや入試説明会」の参加率は低かったが、役立ち度については全ての出身校で高い傾向にあった。さらに、出身校による役立ち度の平均値の差について、項目ごとに一元配置分散分析を行ったが、有意水準 5%で有意な差は認められなかった。

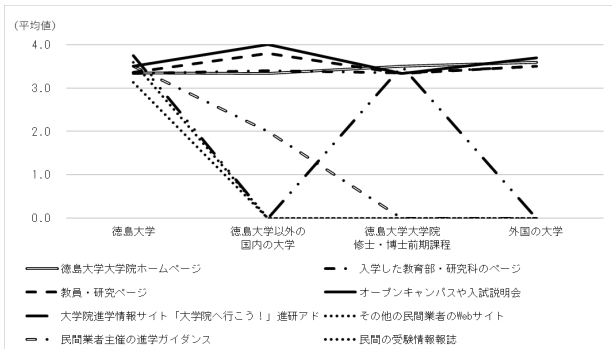


図2 各項目の役立ち度（出身校別）

3.4 重視した特徴の分析結果

本学の受験を決める際に重視した特徴については、表4の23項目について、「1：まったく重視していなかった」から「4：かなり重視した」の4段階で尋ねた結果（表4）、全体で見ると、「国立大学であること」や「教員の研究テーマ」、「大学の立地・環境」の順に重視度が高くなった。「教員の研究テーマ」の重視度が高くなった理由として大学院は、学校に学びに行くというより指導教授に学びに行くという意味合いが強くなっていることが考えられる。しかし、出身校が「徳島大学」では、「国立大学であること」の重視度は非常に高いが、他の項目についての重視度は低い傾向にあった。また、「外国の大学」では、「国立大学であること」よりも「カリキュラム（教育内容）」や「開講されている授業内容」、「外国語教育」等が重視される傾向

にあった。このことから、留学生にとって、カリキュラムや授業内容等が本学の受験を決める際に重要であることが示唆された。さらに、出身校による重視度の平均値の差について、項目ごとに一元配置分散分析を行った。その結果、ほとんどの項目において有意差が認められ、出身校によって、それぞれの項目に対する重視度は異なることが明らかになった。

4 考察

本稿では、徳島大学大学院の新入生を対象に、影響を受けた人物と影響度、広報媒体の利用状況と役立ち度、重視した特徴について質問紙調査を行い、出身校別に比較し検証を行った。その結果、以下の知見が得られた。

- ・出身校が徳島大学の新入生は、徳島大学の受験を決める際に先輩・友人に話を聞く機会が多く影響度も強いことがわかった。大学院入試を合格した研究室等の先輩から大学院での学びや入試についてのアドバイス等をもらいやすいことが考えられる。
- ・出身校が徳島大学以外の国内の大学の新入生は、徳島大学の受験を決める際に、教員の研究テーマを特に重視し、入学した研究科のページを最も多く利用していた。留学生（出身校が「外国の大学」）でも利用率が100%であったことから学外からの志願者を確保するためには公式ホームページで、積極的に研究内容や成果等を情報配信していくことが重要であるといえる。
- ・出身校が徳島大学大学院修士・博士前期課程の新入生は、受験を決める際に国立大学であることと教員の研究テーマを特に重視しており、徳島大学の先生に話を聞く機会が多く、影響度も強いことがわかった。
- ・留学生（出身校が「外国の大学」）は、受験を決める際にカリキュラムや授業内容、取得可能な資格等を特に重視しており、他の出身校と比べオープンキャンパスや入試説明会への参加が比較的多い傾向にあった。以上から、留学生の志願者を確保するためにも積極的にオープンキャンパスや入試説明会等を開催し、英語版のパンフレットを作成するなど留学生が欲している情報をわかりやすく提供することが重要である。

5 まとめと今後に向けて

出身校によって、受験を決める際に影響を受けた人物と影響度、広報媒体の利用状況と役立ち度、重視した特徴に違いがあることから、出身校別に入試広報の戦略を立てる必要があることが示唆された。

調査結果により、大学院の定員充足率を改善するた

表4 重視度と一元配置分散分析の結果（出身校別）

	全体 N=428			徳島大学 (N=377)			徳島大学以外の 国内の大学 (N=21)			徳島大学大学院修士・ 博士前期課程 (N=23)			外国の大学 (N=7)			一元配置分散分析				
	順位	平均 値	標準 偏差	順位	平均 値	標準 偏差	順位	平均 値	標準 偏差	順位	平均 値	標準 偏差	順位	平均 値	標準 偏差	自由度		F 値	p 値	有 意 確 率
																グ ル ー プ 間	グ ル ー プ 内			
国立大学であること	1	3.62	0.67	1	3.65	0.62	2	3.19	1.05	1	3.59	0.65	10	3.14	0.83	3	419	4.55	0.004	**
教員の研究テーマ	2	3.03	0.96	2	2.98	0.96	1	3.38	0.84	2	3.48	0.93	6	3.43	0.49	3	421	3.47	0.02	*
大学の立地・環境	3	2.87	1.01	3	2.87	1.00	3	3.00	1.07	3	2.86	1.04	17	2.67	1.11	3	419	0.20	0.90	n.s.
研究環境が整っていること	4	2.68	0.93	4	2.64	0.92	4	3.00	0.76	4	2.81	1.01	7	3.33	1.11	3	416	2.19	0.09	n.s.
入学試験の科目	5	2.58	1.03	6	2.60	1.03	10	2.10	0.92	6	2.57	1.09	8	3.17	0.90	3	419	2.26	0.08	n.s.
卒業生の就職先	6	2.52	1.05	5	2.60	1.01	16	1.81	0.91	17	1.81	1.14	21	2.00	1.15	3	416	8.16	0.000	***
カリキュラム（教育内容）	7	2.47	0.94	8	2.44	0.92	5	2.57	1.00	7	2.57	1.05	1	3.83	0.37	3	418	4.61	0.003	**
出身大学等からの進学実績	8	2.45	1.03	7	2.53	1.01	19	1.52	0.73	16	1.81	0.91	13	3.00	1.10	3	417	10.16	0.000	***
大学の雰囲気	9	2.40	0.99	9	2.39	0.97	8	2.24	1.02	11	2.27	1.17	4	3.57	0.73	3	417	3.64	0.01	*
教育のサポート体制	10	2.36	0.92	10	2.33	0.89	6	2.43	0.95	5	2.62	1.21	9	3.17	0.90	3	419	2.26	0.08	n.s.
開講されている授業内容	11	2.35	0.92	11	2.32	0.89	7	2.38	0.95	9	2.36	1.19	2	3.71	0.45	3	420	5.34	0.001	**
就職のサポート	12	2.24	0.94	12	2.29	0.91	12	2.00	0.98	20	1.67	1.08	19	2.40	1.02	3	415	3.49	0.02	*
地元の大学であること	13	2.21	1.24	13	2.24	1.24	14	1.86	1.21	14	2.14	1.25	22	1.80	0.75	3	417	0.82	0.48	n.s.
取得可能な資格	14	2.13	0.98	14	2.09	0.94	11	2.10	1.11	10	2.33	1.21	5	3.50	0.76	3	416	4.47	0.004	**
入学者受入方針(ドミジョン・ボリツ)	15	2.05	0.87	16	2.02	0.84	9	2.10	0.81	12	2.23	1.08	11	3.14	0.99	3	420	4.23	0.01	**
大学独自の奨学金や授業料免除制度	16	2.00	0.96	17	1.95	0.90	13	1.95	1.05	8	2.55	1.30	12	3.14	1.12	3	420	6.21	0.0004	***
前年度の倍率	17	1.99	0.96	15	2.02	0.97	20	1.43	0.58	18	1.76	0.97	18	2.50	0.96	3	419	3.52	0.02	*
外国語教育	18	1.92	0.80	18	1.90	0.76	15	1.81	0.79	13	2.14	0.99	3	3.60	0.49	3	417	8.62	0.000	***
他大学との交流、単位互換など	19	1.75	0.78	19	1.73	0.75	17	1.81	0.91	19	1.71	0.98	14	3.00	0.82	3	416	5.36	0.001	**
留学制度	20	1.74	0.78	20	1.72	0.75	18	1.71	0.76	15	1.91	1.04	16	2.71	1.03	3	420	4.17	0.01	**
サークル・部活動	21	1.69	0.85	21	1.71	0.85	23	1.19	0.39	21	1.62	1.00	20	2.00	1.15	3	416	2.82	0.04	*
国家試験・公務員の合格率	22	1.55	0.75	22	1.57	0.76	21	1.38	0.72	23	1.33	0.64	23	1.60	0.80	3	414	1.01	0.39	n.s.
学生寮	23	1.30	0.63	23	1.27	0.56	22	1.24	0.53	22	1.38	0.95	15	2.83	1.21	3	416	13.51	0.000	***

※*** : p<.001, ** : p<.01, * : p<.05

※各項目は全体の平均値の降順に並べた。

めには、WEB サイトの充実（特に教員の研究紹介）や入試説明会等の開催と先輩や教員における積極的な勧誘が必要であると考えられる。今後は、各研究科においてどのような広報活動ができるのかを検討していきたいと考えている。さらには、広報活動以外で志願者を集めるために、入試方法の改善や経済的支援、英語による授業のみで学位を取得できる大学院プログラムのような留学生を対象とした入学増加策等の開設が有効に働くと考えられる。

原田・和久田（2021）は、大学入学時点の属性（性別、出身地、入試区分、学部時代の専門分野）と入学

者アンケートの情報を用いて大学院への進学に影響を与える要因について明らかにしている。本学においても、特に理工・農学系は、学部からそのまま大学院へ進学する学生が多い中、学部からの進学者をどのように確保していくのかは重要である。さらに、高校生が大学の進学を考える段階から大学院進学を意識してもらえるような入試広報のあり方を考えていくことも大学院の定員未充足を解決する糸口になるかもしれない。

参考文献

- 原田健太郎・和久田千帆 (2021). 「入学時点の変数と大学院への進路決定の関係—入学時の情報に基づく大学院進学の規定要因分析—」『大学入試研究ジャーナル』 **31**, 189–195.
- 金子元久(2011). 「大学院教育の現状と展望—終了後の進路に注目して—」『Guideline11月号』, 2–7, 河合塾.
- 並川 努・佐藤喜一・濱口 哲 (2014). 「入試広報に関する受験・保護者の動向の検討—新潟大学入学者を対象とした入試広報アンケート分析から—」『大学入試研究ジャーナル』 **24**, 149–154.
- 文部科学省大学審議会 (1991) 「大学院の整備充実について (答申)」文部科学省
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/attach/1411733.htm (2021年5月2日).
- 佐藤喜一・中畝菜穂子・濱口 哲 (2012). 「新潟大学における入試広報戦略と新生へへの入試広報アンケートによる入試広報活動の点検」『大学入試研究ジャーナル』 **24**, 309–316.
- 吉田章人・並川 努・坂本 信 (2018). 「新潟大学における入試広報アンケートの分析」『大学入試研究ジャーナル』 **28**, 127–132.